

昭和36年（1961）奈良ドリームランドが開園

かなり「怪しい経緯」のもと、「ディズニーランド」を模倣して造られることになった奈良ドリームランド。その実態はディズニーランドとは程遠い「いかにも日本らしい遊園地」でしたが、奈良市民も含め、レジャー施設としてはそれなりに楽しめる空間として人気を集めることになりました。

平成18年（2006）閉園。



昭和36年 ドリームランド開園風景

写真提供：谷井孝次氏（奈良市今昔写真集 樹林舎）

昭和 36 年 (1961) 9 月 16 日 第二室戸台風襲来

かつてない強い台風が来た。奈良市では最低気圧 946.5 ヘクトパスカル、最大風速 25m/秒、最大瞬間風速 42.4m/秒。奈良地方気象台の窓ガラスが吹き飛び観測機器が破損したためそれ以上の測定ができなかった。第二室戸台風で東大寺の良辨杉も倒れました。奈良県警まとめでは家屋全壊 126 戸、半壊 907 戸、流失 2 戸。

第二室戸台風で東大寺の良辨杉も倒れた。

写真：市制 100 周年記念要覧「奈良」より



昭和 39 年 (1964) 東京オリンピック

東京オリンピックの聖火リレーが行われ、和歌山県から入り、奈良県を二日で縦走し京都府へリレーした。奈良県の最終走者土屋忠博さん。当時一条高校3年生。

昭和 39 年 9 月 28 日 梅谷口付近

写真撮影：木村守男氏



昭和40年(1965) オメガカーブ区間も含め 「名阪国道」が開通

現在では考えられないようなスピード工事により、わずか2年半で建設が完了した「名阪国道」(千日道路)。道路事情がまだ悪かった当時の奈良にとっては東京・名古屋方面と物流が直結するというメリットは計り知れないものであった。



昭和40年頃「名阪国道」天理東インター東の米谷橋付近

写真撮影：城之内写真

昭和40年(1965) 現「奈良県庁舎」建設

設計は片山光生。近代建築の巨匠であるコルビュジェに倣ったコンクリート建築が立てられたことは大いに物議を醸したピロティ（一階部柱）で持ち上げられた低層棟が中庭を取り囲むような構成。飛鳥・奈良時代の伽藍配置をイメージした回廊のようである。伝統様式とモダニズムの融合。



新庁舎から見る旧庁舎

写真撮影：木村守男氏



昭和40年(1965)3月22日 奈良県新庁舎落成

写真撮影：木村守男氏

昭和40年（1965）月ヶ瀬橋の工事風景

国の名勝である月ヶ瀬梅林は江戸時代から文人墨客によって有名な梅林で奈良県の三大梅林の一つです。この地区の高原を下刻して深さ百数十メートルの名張川の溪谷があるが、下流域に高山ダムが建設され月ヶ瀬湖が形成された。

高山ダム建設のため架け替えられている月ヶ瀬橋。下の橋は第3代目、上は建設中の現代の第4代目月ヶ瀬橋。

昭和43年完成。

写真提供：稲葉耕一氏



昭和44年（1969）近鉄奈良駅地下化に伴い 油阪駅の廃止・新大宮駅の新設が行われた

長らく「路面電車」のような形で近鉄奈良駅付近を走っていた近鉄電車が、この年に地下路線に変更されることになり、国鉄線を跨ぐ位置にあった「油阪駅」が廃止された。



近鉄奈良駅の地下化工事

昭和昭和44年12月9日に乗り入れが始まった。翌年3月には近鉄の駅ビルが建ち、12月に大宮通りも全通。周辺地区が大きく発展する。

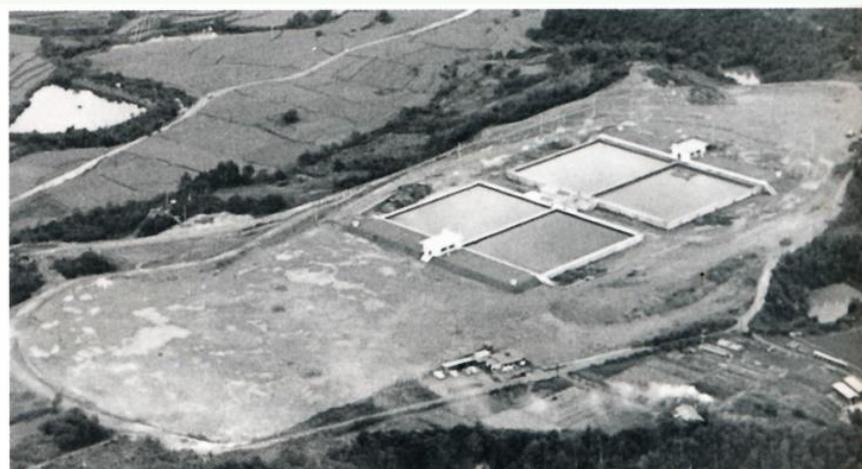
写真：市制100周年記念要覧「奈良」より

昭和44年(1969)7月22日 須川ダム完成

奈良市の水道用水専門ダムとして須川ダムが昭和44年完成した。

ダム貯水池の水源は、布目川と白砂川で取水し、トンネルと鑄鉄管でダムまで導水。

須川配水池から自然流下導水管で緑ヶ丘浄水場へ導水され奈良市北部の水源となる。



緑ヶ丘浄水場

昭和38年(1963)7月2日 通水

写真：奈良市制100周年記念要覧「奈良」より



須川ダム完成 昭和44年7月22日

写真：奈良市制100周年記念要覧「奈良」より

昭和45年（1970）大阪万博

テーマ「人類の進歩と調和」で開かれた大阪万博。世界から人が集まり大混雑。奈良の各学校からも見学に行った。飛鳥小学校児童は、はぐれない様にAの白帽子と青のリボンの目印をつけ、5,6年生400名がバス7台で見学した。

写真は太陽の塔とお祭り広場

写真提供：飛鳥小学校



昭和 29 年 (1954) ~ 昭和 47 年 (1972)

鹿の「白ちゃん」

昭和 29 年 (1954) 8 月 20 日
生まれの奈良公園の牝鹿。頭に白い
冠のような毛が生えていた。9 歳の
時に出産したが、仔鹿は交通事故で
亡くした。

白ちゃんも昭和 47 年 (1972) 7 月
11 日交通事故で亡くなった。



白ちゃん 7 歳

昭和 36 年 (1961) 8 月 27 日



白ちゃん 2 歳半

昭和 32 年 (1957) 1 月 20 日

写真撮影：岡田庄三氏

昭和48年(1973)5月 都市計画道路外環状線 北部地区完成 (ならやま大通り)

外環状線北部地区(生駒市南田原を結ぶ外環状線の北部)昭和48年5月28日開通
右に平城ニュータウン右京団地が見える。
奈良市西部地区の断水を解消するため、地下に直径1000mmの水道管を埋設。

(緑ヶ丘浄水場より導入の幹線配水管「新大湊幹線」が埋設)

昭和62年(1987)一般公募で「ならやま大通り」の愛称がつけられた。

写真提供：奈良市役所(奈良市今昔写真集 樹林舎)



昭和 52 年 (1977)

奈良市庁舎が奈良町エリアから現在地に移転

猿沢池の南側（東寺林町）にあった奈良市役所は、戦後すぐに火災で焼け落ちるもすぐに再建されたが、市制 80 年にあたる昭和 52 年に新大宮駅の西側の新しい市街地に移転した。（二条大路南一丁目）。



昭和 53 年 市庁舎移転 1 年後 写真提供：奈良市



昭和 52 年 (1977) 2 月 11 日奈良市新庁舎落成

写真：木村守男氏

昭和54年(1979) 田原エリアの茶畑の中から

おおのやすまろ 「太安萬侶墓」発見

田原エリアの山腹に広がる茶畑の一角で農家の方が発見した「太安萬侶墓」(古事記編纂)。遺骨も含めて保存状態はよく墓誌には被葬者の名前、没年月日などがみられた。



出土した墓誌⇒

写真提供：竹西清氏



発見され早速社会科見学に田原小学校の児童たち

写真提供：奈良市立田原公民館

昭和 55 年（1980）東大寺大仏殿「昭和の大修理」

明治から大正にかけても大規模な修理が実施された大仏殿は、その際に後回しにされた「屋根」の部分の老朽化が著しくなった。屋根を中心に大規模な修理が実施されることになり、13万枚の瓦が葺き替えられることになりました。

大仏殿を覆う素屋根（仮設）作りは大仏殿の横で鉄骨ユニットを組み立てスライドさせて完成する工法で造られた。（屋根上での組み立て作業なしで素屋根完成）



写真は昭和 53 年 3 月 大仏殿大修理の覆い屋根

写真：木村守男氏

昭和51年（1976）薬師寺金堂が再建 昭和56年（1981）西塔再建

ユニークな人柄で知られる「高田好胤（たかだこういん）」管長は、全国の百貨店などで写経を行うという小口の勧進を100万人以上から集め、その資金で檀家を持たない薬師寺の再建事業を行った。管長就任から10年余りで金堂の再建を達成し、続けて西塔再建を再建し、東西二塔の姿が見れる。



昭和56年ごろの金堂と東西二塔（西塔再建直後）

写真：城之内氏

平城京左京二条二坊宮跡庭園

昭和 57 年 (1982) 史跡文化センター開館

昭和 50 年奈良郵便局の移転に伴う発掘調査から敷地の中央に園池を配した大規模な庭園の遺跡が出土した。奈良時代の庭園遺跡であり日本古代の庭園の姿を伝える貴重な文化財です。園池は比較的浅く大小の石を使って形は S 字状でした。池を觀賞できる様な建物が建ち並び、出土した木簡や瓦等から公的な宴遊施設と推定されます。

昭和 53 年に国の特別史跡に、平成 4 年特別名勝に指定されました。

昭和 57 年 (1982) 史跡文化センター開館。遺構展示室などがあったが平成 16 年閉館

国の特別名勝



史跡文化センター施設と庭園

「奈良市制 100 周年記念要覧」より

宮跡庭園 令和 4 年



昭和59年(1984)9月8日

わかくさ国体開催

奈良市の鴻ノ池陸上競技場で第39回国民体育大会が開催。

わかくさ国体のスローガンは「駆けよ大和路、はばたけ未来」

令和6年より「国体」から「国民スポーツ大会」に名称変更予定。

再び奈良で令和13年に第85回国民スポーツ大会が本県で行われる予定。



昭和 63 年 (1988)

なら・シルクロード博覧会開催

日本経済が最も好調な時期と重なる形で実施された「なら・シルクロード博覧会」。

「民族の英知とロマン」をメインテーマに平城宮跡及び奈良公園周辺の会場で行われた。総合プロデューサーは「天平の薨」などで知られる作家井上靖。

大勢の企業がパビリオンを出すなど賑わいを見せた博覧会は、700 万人近くの方が訪れた。

海のシルクロード館
遣唐使船の展示



写真：木村守男氏

昭和 63 年（1988）平城宮跡の跨線橋

シルクロード博の開催期間、平城京跡に近鉄線を跨ぐ一時跨線橋が設置されたことがあります。

現在は異なる場所に踏み切りができています。



シルクロード博用跨線橋

写真：木村守男氏